

おはようございます。

校長先生の声届いていますか？

今日は少し変わったテーマでお話をしようと思います。それは「ぬ」についてです。

ひらがなの「ぬ」です。

では、いまから、周りの人と、「ぬ」ではじまる言葉を10こ言い合ってみましょう。制限時間は1分です。それでは、はじめてください。よーいスタート！

どうでしょうか？

10こ言葉ができましたか？

ぬりえ、ぬいぐるみ、ぐらいはでましたか？

布、ぬかづけ、ぬるま湯、主、沼、縫う、盗む、ぬた、ぬれタオル、などもありますね。

これでしりとりで「ぬ」がきても少しは強くなれそうですね。

逆に、「ぬ」で終わる言葉ってどんなのを思いつきますか？

いぬ、エヌ、絹、死ぬ、などなど

ことわざで、

「腹が減っては戦ができぬ」というものを聞いたことはありませんか？

どんな意味でしょうか？

少し周りの人と聞き合ってみてください。

そう、おなかが減っては、勉強やお仕事などでよい働きはできないというたとえです。最後の「ぬ」

という言葉は、「できない」という意味ですね。

では、今から一曲聞いてください。

♪（夏は来ぬ）

テレビのコマーシャルなどで使われているので、聞いたこともある人はいるとは思いますが、この歌の題名はなんでしょう？

何度もでてきた歌詞ですよ。

そう「夏は来ぬ」です。

卯の花の、匂う垣根に
時鳥、早も来鳴きて
忍音もらす、夏は来ぬ

さみだれの、そそぐ山田に
早乙女が、裳裾ぬらして
玉苗植うる、夏は来ぬ

橘の、薫るのきばの
窓近く、蛍飛びかい
おこたり諫むる、夏は来ぬ

棟ちる、川べの宿の
門遠く、水鶏声して
夕月すずしき、夏は来ぬ

五月やみ、蛍飛びかい
水鶏鳴き、卯の花咲きて
早苗植えわたす、夏は来ぬ

美しい日本語の調べで綴られたこの歌詞、今では使われなくなった、昔の言葉も多いのですが、大まかにいうと、いよいよ夏がきましたよというものです。

ところが、この歌詞、よく考えると、中身と題名が合っていないかもしれないのです。

ホトトギス、たちばな、蛍など夏のおとずれを知らせる鳥や花、虫などがうたわれています。が、題名の「夏は来ぬ」は、「先の腹が減っては戦ができぬ」の「ぬ」は「～できない」の意味でしたよね。それと同じ意味の「ぬ」だとしたら、「夏は来ぬ」の「ぬ」は夏が来ないとなって、歌詞の内容と合わなくなります。どういことでしょうか？

今日のお話はここまでです。最後まで先生の話
を静かに聞いてくれて本当にありがとうございます。
す。

「夏は来ぬ」の本当の意味がわかった人は校長
室前のボードにつぶやいてみてください。
これで校長先生の話が終わります。